名古屋外国語大学論集　第5号　2019年7月

研究ノート

留学生を対象とする企業インターシップ授業の試み

A Report on Internship Classes for Exchange Students

徳本浩子
Hiroko TOKUMOTO

1．はじめに

名古屋外国語大学が創立30周年にあたり策定した「Global Future Project 2018」では、「キャンパスグローバル化および豊かなキャンパスライフのための環境整備」を改革の1つの領域としている。そのアクションプランの1つである「海外からの留学生の受け入れ拡大とそのための環境整備」について、国際日本語教育インスティテュートでは、留学生200人を目標に掲げこの数年取り組んできており、その取り組みの一環として、日本企業におけるインターンシップを含む新たな授業を計画した。このレポートは、その試みについて報告し、特に留学生に関してその効果、問題点を考察して、それらを踏まえて、来年度への改善案を提案するものである。

2．背景

日本に留学してくる学生の目的、希望はさまざまである。また、海外の提携校からの要望も多岐に渡る。その多くの中で常に挙げられるものの中に日本におけるインターンシップがあるが、日本でのインターンシップは海外のそれとはかなり趣が異なる上に、まだまだ定着しているとは言いがたい。

海外でのインターンシップは、通常数か月から1年ほど企業において実際

に就労して経験を積み、その対価としての賃金も支払われるものである。提携校の多くにおいては、このようなインターンシップに単位を与えており、学生の専攻プログラムによっては卒業要件としているところもある。そのため、留学中に日本企業においてインターシップに参加して、単位を取得したり卒業要件を満たしたりしたいという留学生の希望は常にある。

そこで、15年ほど前、当時の日本語教育センターでインターンシップを実施したことがある。この試みには教員は一切関わらず、事務方のスタッフがホテルや英語学校などの派遣先を確保し、夏休みや春休みのような長期休暇中に2週間ほど学生を送り出した。しかし、学生の期待と実際のギャップが大きかったため問題が多発し、その対応に事務方スタッフが忙殺されることになってしまった。一番の理由は、日本企業におけるインターンシップの概念と海外におけるそれとの違いである。留学生たちは「実際に働かせてもらう」ことを期待しているが、受け入れ先は「行儀見習い、職場体験」として受け入れていることがほとんどで、見学とお話しばかりで何もさせてもらえないという不満が学生から頻発した。次に大きな理由は、言葉の壁である。特にホテルのようなホスピタリティ業では言葉遣いが大切で、日本人スタッフですら就労前にトレーニングを受けるが、留学生の日本語ではなかなかそのレベルに到達するのは難しく、受け入れ先もおのずと実際の接客にインターンシップ生を回すことをためらうことになってしまい、先輩たちの横でただ微笑んで立っているだけというような状況になってしまった。英語学校では英語が通じるから問題が少ないかと言えば必ずしもそうではなく、「日本語を全く使わず、日本人スタッフと交わることもほとんどないのでは、日本でインターンシップをしている意味がない」という不満が学生から続出した。そのような不平不満が積もると、単位の出ない課外活動であるということもあって、無断欠勤や遅刻などが出るようになってしまい、受け入れ先から苦情が来て、スタッフは対応に四苦八苦したわけである。そのため、この試みは数年で立ち消えとなってしまい、それ以降これまでインターンシップについての希望には対応できずに来た。

他大学のプログラムでインターンシップを謳っているものもあるが、留学

生が日本企業の現場に触れることができる機会はほとんどなく、企業訪問も資料館や博物館の見学で終わってしまうことが大半である。しかし、日本企業の実際を学びたいという留学生からの希望は恒常的でありニーズも高いため、日本企業におけるインターンシップを何らかの形で可能にすれば、留学生にとって魅力ある授業を提供できるはずであり、本学への留学の大きなインセンティブになると思われる。そこで、留学生の受け入れを拡大するための環境整備のひとつとして、留学生の関心の高い日本企業におけるインターンシップの可能性を改めて模索することになった。

3. 新しいインターンシップ先の開拓

今回新たにインターンシップの可能性を探るにあたり、以前のようなホスピタリティ産業や語学系企業ではなく、中部地区の地の利を活かしてトヨタ系列企業での可能性を模索した。ホスピタリティ産業や語学系企業におけるインターンシップは他の地域でも可能であるが、トヨタ系列企業を始めとする中部地区の「ものづくり」を前面に押し出すことによって、この試みの差別化が図れるかと考えたからである。トヨタ本社をはじめ何社もと折衝した結果、現代国際学部の蕎麦谷茂教授のご尽力により、株式会社デンソー（以下、デンソー）とアイシン・エイ・ダブリュ株式会社（以下、アイシンAW）の2社に受け入れていただけることになった。2017年6月から両社と具体的な交渉を始め、数度にわたる先方との折衝の結果、表1の内容でのインターシップ実施で合意に至った。交渉を始めた段階では留学生のみの予定であったが、学部生も共に学ぶ全学開放とすべしとの学長室の意向を受け、以下のようなアレンジとした。

これら企業では就職活動以外にインターンシップを受け入れておらず、本学だけではなく、受け入れ企業にとっても今回は新しい試みとなった。デンソーは1年ごとの契約、アイシンAWは3年契約である。まずはお互いに様子を見て、双方ともに結果が満足できるものであれば、契約更新を話し合おうということである。

表１：インターンシップの計画内容

株式会社デンソー	
実施時期	2018年8月1、2日　2日間
参加人員	留学生　6名 学部生　2〜3名 留学生2〜3人＋学部生1人でチームを組む。英語実施なので、留学生は日本語力不要だが、学部生は英語力が必要。
使用言語	英語
内容	1日目　会社説明、デンソーギャラリー見学、高棚製作所工場見学
	2日目　海外進出プロジェクト企画模擬、先輩社員との懇親会

アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	
実施時期	2018年7月30、31日　2日間
参加人員	留学生　6名 学部生　6名 留学生と日本人学生でペアを組む。日本語実施なので、留学生は日本語力が必要。学部生は通訳などの留学生サポートができる英語力が必要。
使用言語	日本語
内容	1日目　会社説明、製造事業：QCDを意識したストローATの作成体験
	2日目　営業：プロジェクト立ち上げと社内交渉の模擬

4. Japan Studies 901（特殊講義）の新設

2日だけのインターンシップでは提携校のインターンシップの概念と大きく異なるため、提携校がインターンシップの単位を出すことができるものにはならない。また、本学においても、2日のインターンシップでは単位を出す授業としては成立しない。そして何よりも、留学生が何の準備もせずインターンシップに出向くということは、15年前の失敗を考えれば無謀である。そこで、インターンシップの準備をする授業として新たにJapan Studies 901（サブタイトル：日本ビジネスの実際　Business Practice – The Real Japan）を開設することとし（デンソー用にAクラス、アイシンAW用にBクラスのそれぞれ1クラス）、15週の授業を受けたのち、その総仕上げとして第16週目の夏休み中にインターンシップに参加するという形式を設定した。留学生別

科科目として開講するが、キャンパスグローバル化を念頭に、留学生だけではなく学部生も共に学ぶ全学開放の授業とし、学部生には自由科目の単位として認定されるものとした。また、インターンシップの参加に関係なく、学期中の授業でJapan Studies 901の単位は認定され、その上で、インターンシップ参加者には、学長名で「インターンシップ参加証明書」が発行されることとした。この授業の狙いは以下の通りである。

(1) 日本の「ものづくり」ビジネスの概史および基本を学ぶ
(2) インターンシップを通して日本のビジネス現場の最前線を実感する
(3) 留学生と学部生が共に学ぶことにより、学部生にとってはバーチャルな留学環境を作り出す

また、上記の活動を通して、留学生と日本人学生の相互理解が促進されること、また、インターンシップ先へ名古屋外国語大学生のポテンシャルをアピールすることも期待された。

5. 履修者選抜

全学に開放し履修希望を募ったところ、留学生17名、学部生29名の応募があった。履修希望者に申込用紙を提出させ、面接を実施した。応募者多数の場合は選抜する予定であったが、初年度で何人が脱落せずについてこられるか予測できないということもあり、最終的に全員受け入れることにした。ただし、各インターンシップ先は参加者数に制限があるため、履修していてもインターンシップに参加できない場合もあることを説明して、学生全員から了解を得た。インターンシップ参加者の決定に際しては、授業への参加度、授業内でのプレゼンテーション、インターンシップの準備状況などを考慮するが、優劣付けがたい場合は、抽選で選考することとした。また、デンソー用のAクラスとアイシンAW用のBクラスの両方を履修すること、および卒業年度の学生の履修は認めないこととした。卒業年度の学生の履修を認めない理由は、インターシップのタイミングが就職活動時期と重なることと、このインターンシップは直接の就職活動とは異なるということである。

面接後に選抜することにしたため、履修登録方法はWEB登録ではなく、

留学生は国際日本語教育インスティテュート事務、学部生は教務課が手動で行った。そのため、学期半ばのインターンシップ参加者決定まで登録をしないということが可能となり、インターンシップ参加者に選ばれなかった学生がペナルティなく履修辞退できることになった。結果として、インターンシップ参加者決定後、6名の学部生が履修を辞退した。また、4名の留学生が、帰国時期の問題と健康上の理由で、授業は最後まで履修したが、インターンシップ参加を辞退した。

6. 授業内容と評価方法

インターンシップを含めた授業活動を以下のようにデザインした。

① 学期前半は、トヨタ生産方式や日本的経営などについての講義を受け、与えられたタスクについてディスカッションおよび発表をする。（概要は表2の通り）

② 学期後半は、学生が自ら選んだビジネストピックについて、グループでプレゼンテーションを行う。

③ 授業活動はすべて留学生と学部生が毎回違う相手とチームを組んで行う。

④ 授業における使用言語は英語と日本語とする。

⑤ 毎週、学生は各自授業の振り返りをして、新たに学んだこと、疑問に思ったことなどを簡単なレポートにまとめ、教員にメールで送付する。

⑥ 学期末に、与えられたテーマについてレポートを提出する。

⑦ 蕎麦谷茂教授（日本語）と徳本浩子（英語）が全講義を担当する。

⑧ 成績はインターンシップ参加を除く教室活動とレポートで判定し、PassかFailで（S判定）成績を出す。また、インターンシップに参加した学生には、参加を証明する証明書（certificate）を学長名で発行する。

7. インターンシップ実施内容

インターンシップの実際の実施内容は表3の通りである。デンソーには予定より多くの学生を受け入れていただいた。また、アイシンAWについては、

表２：授業の流れ

Aクラス　デンソー：日本ビジネスの実際	
1週目～4週目	日本のものづくりビジネスの基礎　概説
5週目～7週目	日本のビジネスの海外進出　概説
8週目～12週目	プレゼンテーション指導
13、14週目	ビジネス慣習＆接遇表現（7月中の土曜に2コマ続けて実施）
15週目	レポートフィードバック

Bクラス　アイシンAW：日本ビジネスの実際	
1週目～4週目	日本のものづくりビジネスの基礎　概説
5週目～7週目	日本のビジネスのプロジェクト立ち上げ　概説
8週目～12週目	プレゼンテーション指導
13、14週目	ビジネス慣習＆接遇表現（7月中の土曜に2コマ続けて実施）
15週目	レポートフィードバック

表３：インターンシップの実施内容

株式会社デンソー	
実施時期	2018年8月1、2日　2日間
参加人員	留学生　9名 学部生　5名
使用言語	英語
内容	1日目　会社説明＆デンソーギャラリー見学、幸田工場にてトランスミッションの製造過程見学
	2日目　海外進出プロジェクト企画模擬、先輩社員との懇親会

アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	
実施時期	2018年7月30、31日　2日間
参加人員	留学生　4名 学部生　8名
使用言語	日本語
内容	1日目　会社説明＆製造事業：QCDを意識したストロートランスミッションの作成体験
	2日目　営業：プロジェクト立ち上げと社内交渉の模擬

インターンシップの内容上、参加者合計人数を12名にしてほしいという要望があったが、留学生数が不足したので、学部生を充当した。また、インターンシップには、4日ともバスをチャーターし、担当教員2名がすべての行程に付き添った。

8. 学生によるインターンシップの評価

インターンシップ実施後、参加者全員に振り返りシートの提出を課した。質問は以下の5つで、自由記述形式で実施し、使用言語は英語でも日本語でもよいとした。

(1) Let's look back what YOU (not your group) did specifically during your internship.
このインターンシップで具体的に自分は（グループではありません）何をしましたか。

(2) Let's evaluate what you have learnt or gained during your internship.
このインターンシップを通して学んだこと、得たことを自分なりに評価してください。

(3) Has the image you had of DENSO / Aisin AW changed after the internship? If so, how?
インターンシップの前と後では、デンソー／アイシン・エィ・ダブリュへのイメージは変わりましたか。変わった場合は、どう変わりましたか。

(4) Let us know how we can improve this activity.
この活動を今後よりよいものにするための改善点があれば教えてください。

(5) We appreciate your comments both positive and negative.
何か意見、コメントなどがあれば、自由に書いてください。

その回答をまとめたものが資料1である。個人的な内容やあまりに的外れな内容は省き、重複する内容はまとめてある。1つの回答の中に肯定的なコメントと否定的なコメントの両方が含まれる場合もあるが、おおむね肯定的な

コメントには○、否定的なコメントには×を文頭に付けた。

学期開始時、以下の3つを授業目標に掲げた。学生の振り返りシートから、これら3つの目標について、学生の評価を検証する。

(1) 日本の「ものづくり」ビジネスの概史および基本を学ぶ
(2) インターンシップを通して日本のビジネス現場の最前線を実感する
(3) 留学生と学部生が共に学ぶことにより、学部生にとってはバーチャルな留学環境を作り出す

「日本のものづくりビジネスの概史および基本を学ぶ」という目標については、留学生の多くはビジネスや経済専攻であったこともあり、すでに自国で学んだ内容の再確認になってしまったため、少々不満を感じている者もいたが、同じグループの学部生に説明することを通して理解が深まったと捉えてくれた者も多かったようである。また、ビジネス以外の専攻の留学生は、今までイメージでしかなかった「日本的経営」の実際を学ぶことができ満足していたようである。学部生については、全学開放としたため様々な専攻の学生が混在することになり、「小売、卸売」といったビジネスの基本的用語すら知らない者もいて、ハードルが高いと感じた者が多かったようである。しかし、それを自覚し、学習への前向きな刺激と捉えてくれていたようである。

「インターンシップを通して日本のビジネス現場の最前線を実感する」については、留学生についてはかなり不満を残す結果となってしまった。留学生にも、自分たちが日本を代表する大企業にこのような形で入ることは、たとえ2日間であるにしろ、珍しいことであるという自覚はある。しかし、インターンシップという文言を使ってしまったことに誤解を招く要素があり、このような機会を与えてもらってありがたかったと書いてはいるが、これはインターンシップではないというコメントが多くあった。「ビジネス現場の最前線」に触れることはそう容易いことではない。ましてやわずか2日間でできることではない。この目標の立て方は少し修正する必要があるだろう。

「留学生と学部生が共に学ぶことにより、バーチャルな留学環境を作り出す」という目標については、かなり成功したと言えるのではないかと考える。今回は学部生が留学生から助けてもらったり説明してもらったりする場面が

多かったが、その活動を学部生と留学生の双方が肯定的に受け止めていることが振り返りシートから読み取れる。また、ディスカッションという授業形態に留学生は慣れていることもあってか、グループでイニシャティブをとって積極的に授業に参加してくれ、満足度も高かった。

総括すると、否定的なコメントもあるが、留学生および学部生の双方からすべての質問に対して肯定的なフィードバックがあり、上記3つの狙いは概ね果たすことが出来たと理解していいのではないかと考える。

この振り返りシートで明らかであるが、留学生および学部生それぞれが何らかの気付きを経験している。学部生は自国、特に地元の企業についての知識が留学生に比べ自分たちにどれほど欠けているか痛感する場面が多々あったようであるし、留学生はこれまで学んだ知識を再確認し、その実際を体験することができたようである。自分に足りないものを自覚することもあれば、隠れた能力を発見することもあったようである。そのいずれもが大変貴重な経験であり、学生自身インターンシップを肯定的に評価しているようであった。

9. 授業およびインターンシップの課題

今後の課題としては、以下のことが挙げられる。①⑤についてはペアティーチングを行った蕎麦谷教授も強く感じておられ、学期終了後の反省点として挙げられた。また、④⑥については改善の必要性を共に確認している。

① 講義のレベルをどこに位置づけるか

社会やビジネスについてほとんど知識のない学部生と比べ、留学生はある程度のビジネス知識をもっていることが多い。特に、ビジネス専攻の留学生の場合はかなり深い知見を持っている場合もある。そのようなレベルのかなり異なった学生が混在する授業では、どのレベル、どの内容に焦点を当てて授業を組み立てるか困難さを伴う。難しくなりすぎても易しくなりすぎても学生には不満が残ってしまう。また、学生の日本語および英語の語学力の差も活動内容によっては障害になることもあり、そのレベルの位置づけも熟考する必要がある。

② 評価基準をどこに設定するか

今回は、授業参加度、毎週の振り返りレポート、期末レポートで判定したが、どんな内容をこちらが期待しているか明確にしなければ、評価が公平ではないという不満が出る危険性がある。今回は、PassかFailのS判定だったので詳細な評価基準を設定する必要がなかったが、A, B, C, D判定を出すのであれば、熟慮する必要がある。

③ 成績評価の問題

今回は、PassかFailのS評価としたが、留学生や一部の熱心な学生からA, B, C, D判定を出してほしいという声があった。

④ インターンシップに参加する学部生選定の問題

当初はインターンシップ参加者は抽選で選考するとなっていたが、「小売、卸売」といったビジネスの基本的語彙すら知らない学部生もおり授業についてくるのも難しかったため、学部生については毎週の授業振り返りレポートの評価による優先枠を急遽設け、残りの枠を抽選にした。しかし、その選考方法の変更が学生に知らされず突然行われたため、学部生、留学生の双方からかなり不満が出てしまった。

⑤ インターンシップにおける活動参加度の問題

インターンシップにおいて、留学生に比べ総じて学部生の発言が少なく、アピール度が弱かった。

⑥ 学生の自覚の問題

参加の服装や態度等について何度も注意していたにも関わらず、不適切な服装で参加した学部生が見られた。また、デンソーから別途アンケートの提出が課されていたにもかかわらず、期限までに提出した学部生はほとんどおらず、先方から催促がくるということがあった。

⑦ シラバスに記載する文言の問題

シラバスに「インターンシップ」という文言を使用したため、提携校から授業内容についての照会が何回かあり、「そのような内容はこちらではインターンシップとは言わないので、紛らわしい」という指摘があった。また、留学生からも、「これはインターンシップではなく、ワーク

ショップだ」というコメントが少なからずあった。

10. 来期への改善・修正

上記の課題を踏まえた改善点は以下の通りである。

(1) 講義のレベルをどこに位置づけるか

毎年学生の顔ぶれが変わるごとに彼らの専攻も興味も変わるため、講義レベルの問題は大きな課題である。今回かなり深い内容にまで踏み込んだときもあったが、シラバスに明記した内容をすべてカバーしなければならないという思いから、授業ペースをスローダウンすることをためらってしまった。「授業についていけなかった」と学生が書いていることもあり、来期は学習項目を少し減らす方向で考えており、学生の反応を見つつ、内容を調整できるような準備をしておきたい。また、留学生から、「授業では大きなトピックばかり扱ったが、実際にインターンシップに行ってみたら小さくて具体的なトピックだった」とか「もっとインターンシップと同じようなフォーマットの授業にしてほしい」というコメントがあった。今後はもう少しインターンシップに直結する内容やディスカッションを入れ込んでいく予定である。

(2) 評価基準および成績評価の問題

来期も引き続きS判定で行うが、その次の年度においてはA, B, C, D判定にできるよう、評価基準を考えながら準備を行っていく。またS判定であることを学期初めからしっかりと学生に説明して了解してもらうようにする。

(3) インターンシップに参加する学部生選定の問題

今回は、留学生は履修者17名全員が参加できたが、学部生は29名中13名しか参加できなかった。参加可能となった留学生のうち2名が体調不良、2名が帰国時期の問題でインターンシップ参加を辞退した。選考に漏れた学部生16名中6名は履修をその時点で取りやめたが、残りの10名は最後まで受講した。

学期開始当初「選抜は抽選による」と明記していたにもかかわらず、学

生の了解を得ることなく途中で方針を変更したため、学生に不公平感や不満が残ってしまったので、来期は履修登録方法をWeb登録に変更し、面接は行わず、定員オーバーの場合は機械的な抽選とする。今期の授業を振り返ってみれば、履修者はみな真剣で意欲があった。語学力の優劣はあれど、授業方法の工夫で何とかカバーできると考える。そのため、面接や授業態度による選抜をする必要はないと判断したのである。

(4) インターンシップにおける活動参加度の問題

授業において、英語での活動では学部生がおとなしく、日本語での活動では留学生がおとなしいという、ある意味で当然の傾向が見られたが、その傾向がそのままインターンシップにも出てしまった。来期は授業の段階から発言を促し、積極的なアピール方法を考えさせたい。また、そのためにグループ編成やトピックを工夫するつもりである。

(5) 学生の自覚の問題

あまりに子ども扱いだと思い、前もって服装チェックをすることはしなかったが、今回の失敗を踏まえて、第13、14週目の「ビジネス慣習＆接遇表現」の授業にインターンシップ当日の服装で来させ、チェックするつもりである。

(6) シラバスに記載する文言の問題

ポータルのシラバスでも配布物でも「インターンシップ」という文言の使用は避け、「体験型学習」という書き方に改めた。また、授業で、日本におけるインターンシップと海外でのそれとの違いについても触れるつもりである。

留学生に限って言えば、上記の点に加えて、以下の2点も来期は考えねばならない。

● 留学生および提携校への広報活動

インターンシップという文言を使ったため、今回かなりの反応が提携校および留学生からあったが、残念ながら内容が彼らの期待するインターンシップではなかったため、軽い失望のようなものが感じられた。

2日間とは言え日本を代表する大企業に行き、そこで働く人々から直接

お話を伺って、その企業のビジネスの進め方の初歩の手ほどきを受けるということが、どれほどユニークで貴重な経験であるかということを、広く提携校に広報する必要があるだろう。また、そのことを履修登録時に留学生に説明する必要があると感じている。

- 受け入れ先への留学生からの振り返りシートの提出方法について
  今回、留学生からの振り返りシートはそのまま受け入れ先へ提出しご覧いただいた。しかし、留学生のコメントの中には的外れなものや誤解に基づくものもあったので、次回は、ある程度こちらでスクリーニングしてまとめたものを提出する方がいいだろう。

11．最後に

デンソーは1年ごとの契約であるが、留学生からのコメントにかなり辛口のものがあって先方ががっかりなさったこともあり、来期は更新していただけないかと危惧していた。しかし、蕎麦谷教授のご尽力で何とか来期も実施していただける運びとなり、来期もデンソーとアイシンAWの2本立てとなった。今後も永くこのプログラムが続くよう工夫を重ねていきたい。また、今回は主に留学生の側からの報告であるが、学部生の側からの報告もどこかで蕎麦谷先生とご一緒にまとめられればと思っている。

謝辞：　インターンシップ先との交渉から授業構築、ペアティーチングの学期終了まで1年余り、蕎麦谷茂教授にはお世話になった。また、来期もご一緒することになるが、この場を借りて御礼申し上げたい。

資料１：インターンシップ後の振り返りシートのまとめ

（1）このインターンシップで具体的に自分は（グループではありません）何をしましたか。

DENSO

○ I used my initiative to complete tasks and understand the reason behind the task.

○ I have never done anything like the branch expansion task and I enjoyed it.

○ I wanted to focus on looking at the information from a viewpoint the others were not.

○ I acted as a sort of a guide/mentor.

○ 疑問に思っていたことを質問して、答えを得ることができた。

○ 自分なりの意見を話すことができた。

○ 文系の自分がメーカーでできる仕事は何かということを探ることができた。

○ 自分が考えていた以上に必要となることが多くあった。

○ 自分が設定した目的を達成することができた。

× I was a bit shy and most of the talking was done by other students.

× I found myself spending much of the two days sitting down, in busses and in various rooms.

× I tried to apply the things I already learnt in Germany.

× I would have liked to have the format for the presentation worked out near the beginning instead of scrambling to figure it out at the end.

× 事前学習を理解するには時間がかかった。

× 英語で行うということで積極性にかけてしまった。

× はじめ話し合いの内容を理解することができなかった。

AISIN AW

○ 受け身で話し合いに参加するのではなく、自ら発信する立場であると

の意識を変えて行動した。

○　時間管理と短気な部分の欠点を改善した。

○　積極的に自分の意見を述べることができた。

○　久しぶりにグループで何かを達成する感覚が味わえた。

×　It was not easy as my Japanese level, unfortunately, was still not sufficient enough to work the same speed as Japanese students.

×　配られた資料の漢字のレベルが高く、あまり自信が持てなかった。

×　自分の中で考えるだけで全く発信できなかった。

×　普段の授業中も、日本人でなく外国人留学生のほうがより発言していることが反省点である。

×　とても緊張して、うまくグループの話し合いや、時間短縮のための仕事の分配ができなかった。

(2) このインターンシップを通して学んだこと、得たことを自分なりに評価してください。

DENSO

○　I thought this internship was an excellent opportunity to learn more about the manufacturing side of business.

○　The gallery tour was one of the best ways to see how the Denso products.

○　This workshop was also a great learning experience for group work.

○　Japanese work ethic is very admirable and is about building others up and not leaving any one behind.

○　I gained an understanding of what day-to-day life looks like working in the Japanese manufacturing industry.

○　Everyone really ended up contributing nicely and a lot of what each person said were things the others hadn't thought about.

○　I learned that being a leader doesn't really mean that you just make all the decisions, I think that's especially important in Japan. A leader is someone who can get the best out of everyone and work with everyone towards a

common goal.

○　どれだけ基本的なことを着実に、的確に、迅速に行えるかがキーポイントだと気づかされた。

○　自分の固定概念が間違っているということにインターンシップを通して気付くことができた。

○　営業に加えて、事業企画という新たな職種を知ることができた。

×　ほとんど英語を使って行われたので、話の内容を深く理解することができなかった。

×　自分の意見をはっきりと伝えることができない時が多々あった。

×　自分の能力不足を痛感することが多くあった。

×　日本人である私は自己主張ができなかった。

AISIN AW

○　I have learned many advanced words in Japanese, learned to distinguish the meaning from the context and the importance of team work in a company.

○　The chance to actually do nemawashi which was different from our in-class presentations.

○　自分の意見を周りに伝えることが必要だと学んだ。

○　いかに決められた時間の中で効率よくやるかというタイムマネジメントを学んだ。

○　いかに一人一人のベストをチームのベストに繋げられるかを学んだ。

○　学科では学ばない分野をグループワークを通して実践的に学んだ。

○　グループワークの大変さと面白さ、グループの中で意見を共有することの大切さを学んだ。

○　国や育ってきた環境が違う人たちには、自分とは全く違う意見を持つ人が多いことに気づいた。

×　外国人留学生とともに英語で進められる授業では、なかなか発言することができずにいた。

(3) インターンシップの前と後では、デンソー／アイシン・エイ・ダブリュへのイメージは変わりましたか。　変わった場合は、どう変わりましたか。

DENSO

○ Before we had gone to this factory, I had imagined that DENSO would be like the factories I have read about in past classes where workers would be working tirelessly and may not be happy. Everyone at DENSO seemed very happy and satisfied, as well as prideful, about their company.

○ 「個人の力」と「チームの力」の両方を大切にする会社であると感じた。

○ 最先端技術も使っているが、人が関わって作っているということを改めて感じた。

○ デンソーのギャラリーでは、ものづくりに対するデンソーが歩んできた歴史と数々の製品についてより深い理解を得ることができた。

○ 企業が社員に数多くのセミナーを開催しており、社員を大切にしている会社であるというイメージにつながった。

× I do not think I experienced enough in the internship.

× It would be better if there had been more time and we would have gotten a chance to meet more people and see more things.

AISIN AW

○ The activities we did on both days were very fun.

○ It actually met my expectations.

○ 思っていたより多様な職種や内容があった。

○ 利益だけに焦点をむけるのではなく、人々の熱意によって目標を掲げて努力している。

○ 会社の鍵を握っているのは営業だとイメージが変わった。営業に対する見方が変わった。

× 自分自身のプレゼンテーション能力の甘さを痛感した。

(4) この活動を今後よりよいものにするための改善点があれば教えてください。

DENSO

○ 受動的に話を聞くのではなく、実際にあったケースで自分たちが主体的になって考えることでトピックに対する理解がとても深まった。

× I got a little bit bored during both days.

× I feel like calling this an internship was a bit of an overstatement.

× It felt more like a recruitment technique/class field trip rather than university internship.

× I prefer more tasks like the one we did on expanding abroad.

× We did not really get to see how they conducted business.

× Mix up the groups.

× This activity could be improved by the instructors knowing a better idea of the schedule, and activities, before the internship.

× For a large part of the semester we were lead to believe there would be a larger presentation, and there was only a short presentation.

× I think more interactive and hands-on activities need to be integrated into the course.

× More case studies or hands on work involved during the internship.

× Give a little more time at each segment.

× Go more in depth.

× もし可能であれば、営業、調達、経理などの仕事の様子も見てみたい。

× グループワークや自分の意見を伝えることのできる機会を増やすべきだ。

× インターンシップの前に授業でしっかりとその企業や、ビジネス内容を学ぶべきだ。

× ワークショップを数回行うことを希望する。

AISIN AW

× I wish we had some more time to observe them and learn about them more in detail.

× Small tour in the company is necessary.

× 事前にアンケートを行い、自分たちが企業で体験したいことについて書かせたらよい。

× 実際の現場に連れて行ってほしかった。

× 資料に英語を少し加えたりすれば進めやすくなる。

× 同じ授業を履修していても参加出来なかった人たちがたくさんいるので、全員が体験できるインターンシップになるといい。

× 他の部署の仕事も少し体験させていただきたい。

× 答えと資料を比較しながら反省を行いたい。

× 持ち帰り可能な資料をいただきたい。

× 個々ではなくグループワークの中で自分の意見を主張して、グループで発表するといい。

(5) 何か意見、コメントなどがあれば、自由に書いてください。

DENSO

○ I hope it is offered in future semesters for other students to participate in.

○ Regardless of the flaws, both days of the workshop were truly memorable.

○ The overall two days was nothing like what I was expecting but also such an amazing experience.

○ 留学生と一緒に行ったため、少し違ったインターンシップで刺激をもらった。

○ 漠然としたイメージしかなかったデンソーという会社を深く知ることができた。

○ 新たな目標とする職種の発見があった。

× I would have liked to have more time at Denso to get to know them a little bit more and see how they operate.

× I think that a majority of what we learned from the workshop could also have been done by glancing through the company's official website.
× Meet more Denso employees.
× This internship was not what I expected it would be. That being said, it was a wonderful and unique experience.
× I had expected four days of 9 to 5 work in one or more departments.
× It didn't quite met my expectations.
× It was quite short.
× I would just have liked to participate in more activities.
× It is that it wasn't quite an internship, but a workshop.
× 自分の能力不足のために、悔しい思いをすることが2日間を通して何度もあった。

AISIN AW

○ I learned a lot about Japanese language.
○ 自分のコミュニケーション力や協調性が上昇したと感じた。
○ 日本の企業での初体験だったが、大変良い経験であった。
○ 楽しみながらも学べることがたくさんあった。
○ 客観的に自分の足りない能力が分析できた。
○ 改めて今後の進路や社会人とは何なのかを考える非常に充実した時間であった。
○ 満足感と仕事の面白さを感じた。
○ 協力して働くことの難しさ、楽しさ、達成感を感じることができた。
× 課題のロールプレイは難しく、アドバイスをいただかなければ答えが出なかった。
× 用語を理解したり、意見を言うのが難しかった。